

謹賀新年



小牧山城で見つかった 水滴(猿形)
(平成25年度 主郭地区第6次調査で出土)

はくつかわら版

平成27年度 第8号

発行日: 20160101

発行: 小牧市教育委員会
小牧山課

問合せ: 0568-76-1623

新年明けましておめでとうございます。

本年も小牧山城をよろしくお願い致します。

「はくつかわら版」年初のご挨拶はこれ以外に考えられない！という小牧山城出土の逸品をご紹介します。

主郭地区第6次調査で出土した水滴(猿形)は瀬戸美濃産陶器で灰釉が施されています。背中と口の部分には水を注ぐための穴が開けられています。

文房具であることから、小牧山城には文字を記すことができる身分の人物が存在したことがわかります。

つぶらな瞳と丸まった背中が何ともいえない哀愁を醸し出す、愛すべきキャラクターです。



別角度で撮影した水滴(猿形)

発掘ひとくちメモ

～水滴(すいてき)とは?～

水滴とは、硯(すずり)で墨を磨(す)るときに差す水を入れる文房具です。陶磁製のものが多く、水を入れたり差したりするため上面と側面に穴が開いています。他の文房具とともに硯箱に収められて使われたと考えられます。中国文人の文房趣味の影響で、賞玩の対象となり、様々なモチーフで作成されています。

硯箱に収められた水滴

